

特別展「神戸百華」コレクションが開く神戸の魅力

【翻刻】

31 当山歴代

延文五年庚子三月廿七日、当寺炎上、丈六釈迦像

不動像卅三身半分焼失畢、本尊観音像・毘

沙門卅三身半分取出之、経部者大般若経計取出廿

自余皆炎上、金堂・釈迦堂・鐘樓・鎮守、法直等焼じ了、

此時大底僧侶離山、残僧不幾、或禅律替衣、或

学問損国、其外思々落失、心々陰居、纔残僧侶

等、失止住計略、迷行道度轍、然間於焼跡構ニ飯

殿於土壇、安ニ本尊、其間為躰、仏前無孤燈、可挑カク

乎、虚燭漢月之光、壇上莫散香、可捻乎、折讓空

霞之薰、加之経巻灰燼而詠ニ講誦於林鷲之

嘯、幡網揚炎而擬シ莊嚴於山花之粧、鐘声自例テ

諸行無常之響、物懸鼓音今更経耳、滅罪之

意弥深、庭松風不揺、莓苔露不霑、每物甲覚

諸哀躰也、非角而可亭、残僧之作興行集会

粵在幹縁主、号明真阿闍梨、即当住持也、道学

兼備而螢雪勿隙、練行懸心而霞寤忘ル堺、才

覚稟性弁口寔鮮、出对甲乙諸人、而申奉加之

弁舌、入痛心腑随腦、而營造功之修計、雖如此之間、

種々災殃出来、作事延引、実今度回録者、雖為

天魔之所為、寺門廢退時節也夫、皆人作退窟窟

思、無念事、何事如之

34-1 天正7年羽柴秀吉制札

掟条々 淡川市庭

一、当市毎月五日、十日、十五日、廿日、廿五日、

晦日之事、

一、らくいちたる上ハ、しやうはい座やくあるへからさる事、

一、くにしちところしち「」之事、

一、けんくハこうろんりひせんさく□を□□す、双方せいはい

すへき事、

一、はたこ銭ハたひ人あつらへ次第たるへき事、

右条々あひそむくともからこれあらは、地下

人としてからめをき、ちうしんあるへし、きうめいを

とけ、さいくハにおこなうへき者也、仍掟如件、

天正七年六月廿八日

秀吉(羽巻)(花押)

34-2 天正8年羽柴秀吉制札

条々

一、当所奉公人何も立置候間、可為如先々事、

一、同町人如有来無異儀可商売事、

一、下々猥之族不可有之事、

右条々違乱之輩有之者、堅可

加成敗者也、仍如件、

天正八年十月廿九日 藤吉郎(羽柴秀吉)(花押)

35-1 羽柴秀吉判物【道場河原町文書】

諸役令免許候、

以上

当所地下人并

町人等、如前々可

還住、若非分

族在之者可加

成敗者也、

天正七年 藤吉郎(羽巻)

十一月廿六日 秀吉(花押)

有馬郡之内道場河原

百姓中

町人

35-2 豊臣秀吉朱印状【太山寺文書】

巻数并鳥目

百疋到来、被

悦思召候、猶

石田弥三可申也、

八月十三日○(秀吉朱印)

大山寺

38 摂州八部郡下之庄白川村鷺尾克古書物目録【鷺尾家文書】

摂州八部郡下之庄

白川村

鷺尾克

古書物目録

一往昔乃諸書物、焼火ニ而

紛失之由申伝、依之

応永年中以前之諸書物

不見

田地之証文

一応永廿一^甲年 治部

田地之証文

一応永廿二^{乙未}年 治部

同断

一応永廿七年 上之治部

39-1 鷹見保具六十賀和歌集写

【兵庫浜本陣絵屋（鷹見）右近右衛門家文書】

冷泉前大納言藤為村卿御出題

満

寄松祝 鷹見保具六十年賀

男 ■ 董具^勅
進

春日社務中主膳正

神主正三位大中臣朝臣時廉卿

六十へし齡の後もいくちとせ

老そふ松の栄へ見すらし

同社社務大西掃部頭

執行正預正三位中臣連延雄卿

むそちより千とせをまつの言の葉も

さそつもるらむいくたひの春

同社社務千鳥修理権大夫

若宮神主從三位中臣連祐益卿

緑りそふ砌のまつは十かへりの

花をいくちたひ宿にみすらん

39-2 雨粟記【兵庫浜本陣絵屋（鷹見）右近右衛門家文書】

長州江戸詰平次田孫七殿簡書

一天明四辰年四月ノコト、江戸アタゴノシタニテ、飢死ノ人

老人、年ゴロ五十余人相イヤシカラヌヨシ、フトコロニ辞世

アリ、左ノ通ノヨシ

一朝寛夢古郷思

嬉しさもうさもつらさもうちわすれくもな

き国のはなの台に

南惣会所古記

一輪田崎明神、延宝八申年七月廿四日、御正体出現、長サ五

寸計へひ、松ノ枝ニ御座候を、宮守連照同日申上刻ニ見付回

差出、明神ならば御乗移候へと申処、御移候処、又近キ松ノ

根ノ根笹へ移候故、能福寺へ知らせ候処、法印他出、吉祥坊

見候、両人けさ差出候処、御移連照居宅へ入ヌ、松ノ枝ニ候を、

和田崎町十右衛門と申もの参候而、扇子差出、御移候を連照居

宅ニ而箱ニ入、連照、吉祥坊夜中付居候処、同夜亥刻、吉祥坊

帰候後、廿五日朝箱ひらき見候処、無御座候、尤能福寺法印見候而之事、右之趣御陣屋へ届、名主へも届候、其後御陣屋名主被召候而、例年和田宮祭礼之節、御湯上ケ候様承候処、当年ハ其儀無之由、御湯上ケ候様被仰付候ニ而、相談之上ニて能福寺方上ケ申候、神楽ハ南浜六町相談之上上ケ申候、神子伊賀と申也

40 浜本陣網屋惣兵衛廻文【安田家文書】

（包紙）「回章 網屋惣兵衛」

一細川越中守様為

御帰国、五月十五日、

十七日之内御止宿之段、

先達而被仰聞候、然ル処

十七日、十八日、十九日之内、

当地御止宿之由、

御内々申来候ニ付、

為御知申上候、御承知

被成置可被下候、以上

（付箋）「明和三戌年」

戌

網屋

五月十二日

惣兵衛 ㊦

小豆屋

助右衛門様 ㊦

絵屋

右近右衛門様 ㊦

網屋

新九郎様 ㊦

肥前屋

粘右衛門様 ㊦

肥前屋

三郎右衛門様 ㊦

網屋

佐左衛門様 ㊦

網屋

三大夫様 ㊦

壺屋

七左衛門様 ㊦

日向屋

治郎左衛門様 ㊦

41-1 中路権右衛門書簡【北風荘右衛門家文書】

（端裏書）「北風様 中路」

愈御清栄奉賀候、
然者今日不寄存

朝廷より楠公社造立
御寄附金千両被下置
候二付、御風意聴申候、
殊ニ難有御書付とも被下
実ニ千歳迄難忘仕合
御同慶奉申候、本書ハ
明日ニも為相写差出
可申候、已上

四月廿三日

(付箋)「慶応四年(明治元)」

41-2 東久世中将達書【北風荘右衛門家文書】
楠社神号并造管
之事、願之通被
聞召候、
就而者神社絵図面取
調、神祇局へ早々可
指出被 仰付候、
神号 勅許之儀者、
清丸社之例ヲ以、
勅使御指立ニ可相
成候、
右之通其筋へ通達、
早々取掛候様

(付箋)「慶応四年戊辰」

四月三日

東久世中将

43 兵庫勤番文書

去ル十一日、地付山崎慈三郎を以御引渡申候
播州姫路小林村百姓伊兵衛倅源蔵
盗取候品々、被盜主江預ケ申付候様、慈三郎へ
御演舌有之候旨承知いたし候、則被盜主
呼出し、其段申渡■下ケ遣候処、品之内手拭
式筋者不見知品々由、尤木綿紺脚絆壹足

無之旨申立候、右者全前書御引渡申候雜物与
間違有之候儀与存候間、右手拭差進候、

一応御調之上脚絆御差越有之候様

致度存候、右可得御意如此御座候、以上

十月十七日

仁木謙吉

東盜賊方

御役人中様

当津船大工町松屋藤左衛門倅定次郎江
御尋之儀有之候間、所之もの老兩人差添、明後
廿五日四ツ時貴御役所へ罷出候様可申渡旨、御紙面
之趣致承知候、則呼出シ時日無遅滞罷出候様
申渡候、右御報如此御座候、以上

十月廿三日

仁木謙吉

東盜賊方

御役人中様

追而、先達播州小林村百姓長兵衛倅源蔵外一人■地付
山崎慈三郎差添差出候節、人足賃并飯代銀並之拾壹匁
七分三厘、并去ル廿日地付島田養三郎方差添差出候、備前奥郡生念
でき町小島屋寅之助倅藤吉召連候人足賃并飯代銀六匁一分二厘、
是又御差こし候、則向人江相渡候間、左様御承知可被成候、以上

44 岡山藩家老日置忠尚自筆御用勤書上

神戸一件始末書上ノ記

去ル十一日西ノ宮へ為出張兵庫庫駄出立、同勢操出シ神戸村通
行之砌、先手行列ノ中間、外国人兩人左手ヨリ右へ通掛候付指
押候内、通詞ノ者取扱相止候、犹又老人右手ヨリ左江通掛候付
指押候処、次ノ隊江掛り割込候付、色々取扱手間似等ヲ以供先
江相廻候様申諭候処、殊ノ外憤怒ノ顔色ニテ大声ヲ発シ、理不
尽ニ押シ通、同時左手人家ヨリ一人短銃ヲ以テ出合狙掛候付、
其場ノ勢不得已得道真ヲ以テ突掛り候処、浅手ニ御座候也、何
レモ屋内ニ逃込、其俣追掛候処、裏口ヨリ供先ヲ浜手へ相廻申
候、先手ノ銃隊右ノ挙動ヲ見テ直ニ擣出候付、精々相制候内、
自彼モ浜手へ及発砲候付、一ト先人数ヲ山手へ操込見合居候内、
外国人共速ニ銃卒押出頻リニ擣掛候付、尚又此方ヨリモ及発
砲ニ申候、尤右ハ不慮ノ義ヨリ指起候、此上大事ニ立至り不申
候様、早々人数引揚申候

外国人ヨリ尋問書

兵庫港発砲ノ一条、外国人ヨリ申出候趣ニテハ、各国公使館ニ
向テ彈丸ヲ飛候也ニ相聞候、其藩ヨリ書付、右ノ境相分り不申
候間、其節ノ始末今一応委細書下ヲ以可申出候事

再応ノ答弁書

兵庫港発砲ノ一条、外国人ヨリ申出候趣ニテハ、各国公使館へ
向テ彈丸ヲ飛候也ニ御聞込ニ相成り、先日指出候書付江右境
相分り不申候也、其節ノ始末今一応委細書中ヲ以可申旨御達
ノ趣奉承畏候、然ル処右ノ事情ハ先般書上候通、先手銃隊中ノ
義ニテ、於私ニハ前後相隔巨細ノ義目撃不仕候得共、元来不慮

ノ事モ指起ノ義ニ付、公使館ヲ襲撃仕候杯ノ積リハ決テ無之候、乍併其場ノ勢ヒ自然彈丸飛立候哉ハ難計奉存候旨、右隊長ヨリ申出候、此段書上申候、以上

二月朔日

日置帯刀(下略)

(※以下展示なし)
郷大將が彼ノ帝
国ノ興廢此一举
ニ在リト信号したる
ト同一ノ心持也

51-1 金子直吉書簡

今当店ノ為メシ居ル計画ハ

凡テ満点ノ成績ニテ

進ミツ、在リ御互ニ

商人トシテ此大乱ノ

真中ニ生レ而モ世

界的商業ニ干係セル仕

事ニ従事シ得ルハ無

上ノ又光榮トセザル

ヲ得ス即此戦乱ノ

変遷ヲ利用シ大

儲ケヲ為シ三井三菱

(庄)

ヲアツ倒スル乎然

ラザルモ彼等ト並テ

天下ヲ三分スル乎

是鈴木商店全

員ノ理想トスル所

也小生共是ガ為メ

生命ヲ五年ヤ十年

早クスルモ縮少スルモ

(厭)

更ニイトフ所ニアラズ

要ハ成功如何ニ在リ

(奮)

ト考ヘ日々フン戦

罷在リ恐ラクハ独

乙ノ天子様テモ小

生程働キ居ラザル

ベシト自任シ居ル

所也ロンドンノ諸

君是ニ協力ヲ切望

(磨)

す小生が須戸ノ自

宅ニ於テ出勤前

此書ヲ記スルハ日

本海海戦ニ於ケル東

54 三宝院下知状【栗花落家文書】

(付箋)「三宝院殿御下知」

山田庄原野村中溝下津井之

手林事

右彼井林事者、往古之任御下知領知

無相違者也、雖然尚諸方違乱内重所

令下知者也、若尚異儀之輩出来者

不日可被處罪科、仍為後日沙汰下知

状如件、

康成元年二月十八日 光■(花押)

57 菅家須磨御記

争識播土澤 今宵辞雲仙

誦

くちつからすしてあたへぬ、空のけしきもはれぬれば、

すてにあらうみのよそひきはまれは、かりや姫をなん

めとなる右衛門のさくはんにもひして、みやこまで

かちよりおくり返しぬ、さためなき身ふたゝひのたい

めんはかりかたき、かき付ぬへきに筆みしかければもらしぬ

再三校合加朱字傍注畢 壺井義知

右須戸記者天神之御自記也、從師家

之相惠之旨所秘之也

享保庚戌年六月 書写畢 辻隆林

67 牛乳搾取販売所引札

乳乃恩

重き母うし

軽く負ひ

かるお

本県庁御認可済

熱気消毒

牛乳搾取直販売所

兵庫東尻池町

遠松牧畜場

●一 松平遠江守様江御引渡帳扣

●一 正徳五^申ノ寒造元禄十丑ノ年三ヶ一被
仰付候帳面之扣

元禄十丑ノ年御蓮上差上ケ申石数

一百七拾八石五斗四升 劍菱屋市郎右衛門

此米貳百九拾六石五斗七升八合

但請高貳百石新酒拾六石卜

右同断

一酒五拾石六斗三升五合 讚岐屋平兵衛

此米八拾四石壹斗一升壹合

但米五拾石新酒拾石請高

(1) 1939年1月29日のメニュー

THE ORIENTAL HOTEL

DINNER

Young Onions Radishes Salted Peanuts

Oyster Cocktail

SOUP

1 Cream of Rice 2 Consomme in Cup

FISH

3 Cold Lobster, Mayonnaise Sauce

ENTREES

4 Sauted Calf's Tongue with Spinach

5 Grilled Entrecote with Champignons

ROAST

6 Young Tom Turkey, Cranberry Sauce

VEGETABLES

7 Fried Sweet Potatoes

8 Saute Stringbeans 9 Celery au Jus

SALADS

10 Heats of Lettuce, French Dressing

DESSERT

11 Plum Pudding, Hard & Brandy Sauce

12 Tutti-frutti Ice Cream

After Dinner Mint

CHEESE

13 Moonbeam 14 Cottage 15 Trappiste

with Crackers

Apple, Banana, Pear, Orange, Assorted Nuts

Demi Tasse

Raisin, White Graham Melba Toast, Roll & Butter

An extra charge will be made for special dishes ordered

Tea in the foyer every afternoon from 4 to 6

S. KANO Manager

Kobe, January 29th, 1939 ¥3.00

オリエンタルホテル

ディナー

ねぎ ラディッシュ 塩炒りピーナッツ

牡蠣のカクテル

スープ

1 米粉のホットシリアル 2 コンソメスープ

魚料理

3 冷製ロブスターのマヨネーズソース和え

アントレ (魚料理と肉料理の間の料理)

4 子牛のタンとほうれん草のソテー

5 肩ロース肉とマッシュルームのグリル

肉料理

6 七面鳥の丸焼き クランベリーソースを添えて

野菜料理

7 さつまいものフライ

8 さやいんげんのソテー 9 セロリの煮物

サラダ

10 レタスの温サラダ フレンチドレッシング

デザート

11 レーズンとナッツのクリスマスプディング

ブランデー入りバタークリーム添え

12 砂糖漬けフルーツ入りアイスクリーム

食後のミント

チーズ

13 ムーンビーム 14 カッタージ 15 トラピスト

クラッカーを添えて

りんご、バナナ、洋梨、オレンジ、ナッツ盛り合わせ

デミタス (コーヒー)

レーズンパン、グラハム粉のトースト、ロールパンと

バター

特別料理をご注文の場合は追加料金を申し受けます

ロビーでのアフタヌーンティーは、午後4時から6時

までお楽しみいただけます。

マネージャー カノウ

神戸、1939年1月29日 3円

(2) 1950年12月23日のクリスマスディナーメニュー

ORIENTAL HOTEL

Christmas Dinner

Dec. 23rd. 1950

Assorted Hors d' Oeuvres

Creamed Corn Soup

Cold Lobster Mayonnaise Sauce

Roast Young Turkey w/ Gravy

Cranberry Sauce

Asparagus and Lettuce Salad

Plum Pudding Hard Sauce

or

Peach Melba

Fruit

Coffee

オリエンタルホテル

クリスマスディナー

1950年12月23日

前菜の盛り合わせ

コーンクリームスープ

冷製ロブスターのマヨネーズソース和え

七面鳥の丸焼き グレイビーソースを添えて

クランベリーのソース

アスパラガスとレタスのサラダ

レーズンとナッツのクリスマスプディング

ブランデー入りバタークリーム添え

もしくは

ピーチメルバ

(バニラアイスとシロップ漬けの桃)

果物

コーヒー

70 トアホテルメニュー

1943年1月29日のメニュー

TOR HOTEL KOBE, 29th, Jan, 1943

DINNER

6-8 p.m.

(Last order taken at 7.30 p.m.)

1. Potage Flamnde
2. Sole St. Germain style
3. Minced Beef w/mashed Turinps
4. Flageolets a la Micoise
5. Salad in season
6. Orange Jelly
7. Fruit
8. Black Coffee

¥ 3.50

A MILDNER MANAGER

トアホテル

神戸、1943年1月29日

ディナー

午後6時~8時

(ラストオーダーは7時30分)

1. フランドル風スープ
2. 舌平目のサンジェルマン風
3. 牛ひき肉のマッシュポテト添え
4. ミコワ風フラジョレ豆
5. 季節のサラダ
6. オレンジゼリー
7. フルーツ
8. ブラックコーヒー

3円50銭

マネージャー ミルドナー

翻刻には句読点を加え、漢字は原則通行の字体に改めました。